

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 千葉県立鎌ヶ谷西高等学校
(※正式名称を記載)

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

所在地 〒273-0121
千葉県鎌ヶ谷市初富 2 8 4 - 7

E-mail m.gtu11@pref.chiba.lg.jp(教頭)
machidamachizou79@gmail.com(担当教員)

Website <https://www.chiba-c.ed.jp/kamagaya-west/>

幼児児童生徒数 男子 406名 女子 377名 合計 783名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「地域との連携」を活動テーマとして、ESD を全生徒が実践できる学習と捉え、ESD の実践を通して地域と協力し、地域と関わりを持つ中で自己を確立させることを目標とした。
具体的には、千葉県ESD部会の活動を柱に、①国際理解に係わる活動、②環境に係わる学習、③ボランティアに係わる学習を行った。

① 国際理解に係わる活動

「千葉県国際教育交流事業 マレーシア派遣」に本校生徒、3名が参加した。鎌ヶ谷西、柏南、我孫子、長生、木更津、千葉学芸の6校で実施。

1学年の総合学習として「留学生が先生」を実施。7カ国(ブラジル、イラン、インド、韓国、ネパール、セルビア、ウクライナ)から7名の留学生が来校し、2時間の授業を展開。文化や伝統について写真や民族衣装を使ったわかりやすい紹介を行った。

また、1学年ではその前準備として「国際理解は理解」と題して講師を派遣し講演会を実施するとともに、全校生徒対象には留学フェアを実施し、資料頒布を行った。



留学フェア



マレーシア派遣



「留学生が先生」

②環境に係わる学習

第3回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会に出場。「地域を巻き込め！服のチカラプロジェクト」
として市をはじめとする地域の保育園、小学校、中学校との連携の取り方持続可能な活動にするための取
り組みを発表し、優秀賞を受賞した。参加協力の機関29であった。難民に送った服は、4500枚。



全国ユース環境活動発表大会

鎌ヶ谷駅前まで夏至に合わせてキャンドルナイトが実施され、牛乳パックを使った灯籠を美術部が出展、飾
り付けを行った。(鎌ヶ谷高校と)



キャンドルナイト

クリーンロード大作戦と題し、部活動、同窓会、PTA、地域の方々で通学路の清掃活動を実施した。20
0名以上の生徒が参加した。



クリーンロード大作戦

② ボランティアに係わる学習

本校一年生、美術部の生徒を中心に鎌ヶ谷市北部公民館のふれあいまつりにボランティアスタッフとして
参加した。また、鎌ヶ谷市民まつりでは福島復興支援ブースやフェイスペイント、イベントブースでのボ
ランティアを行いました。美術部は鎌ヶ谷市役所で「アクアリウムづくり」のワークショップを実施。
美術部、科学部は北部公民館で「夏休みの自由研究のお手伝い～ひまわり博士になろう～」を行った。

また、松戸市が募集をした、地域の安全活動ボランティア六実っこ安全安心見守り隊に、本校生徒も 10
名ほど参加をし、登下校時に首から見守り隊のホルダーを下げ、犯罪防止活動に協力している。

また、例年とおりに書き損じハガキ回収活動も実施している。



鎌ヶ谷市民まつり
復興イベントボランティア



北部公民館 ボランティア



ワークショップ
「アクアリウムを作ろう」



ワークショップ
「ひまわり博士になろう」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

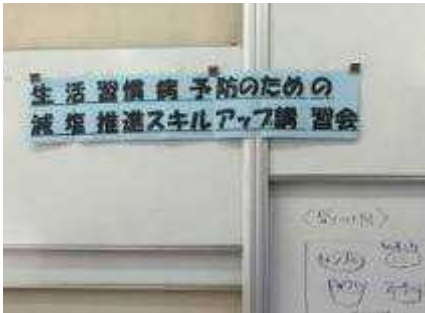
エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

UNHCR この人はなぜ？ いま、日本からできること
 ユニクロ 服のチカラ
 ユニクロ社員による講義（1時間）

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項1-2, 1-3 に対応

家庭総合(1年)の授業で車椅子の体験を行う。介助の体験も行う。また、2年の家庭総合では親子交流会という保育体験を実施している。3年の選択授業フードデザインでは鎌ヶ谷市の鎌ヶ谷市健康増進課 千葉県食生活改善協会のご協力のもと若者の食生活をよりよいものにスキルアップさせる知識と技術を身につける授業と実習を行いました。1, 2年必修の家庭総合の授業の時間に組み入れることで、全生徒が必ず実施体験できるように工夫し、また指導者も外部講師を呼ぶなど、授業内容が一定水準を保つよう工夫している。



3年選択フードデザインの授業



1年生 車椅子介助体験



2年生 親子交流会

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

校内にユネスコ委員会を設置し、千葉県ESD部会に加盟し、活動をしている。各学年に1名以上の担当職員を配置している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

開かれた学校づくり委員会を設置し、学校活動の評価を行っている。今年の活動については、特に1年2組の「地域を巻き込め!服のチカラプロジェクト」がこれまでにない、長期にわたる組織的な活動がなされたと一定の評価を得た。課題は発信力で、もう少し良い情報を、地域に還元できないものか、考えてきたい。本校職員の協力が必要である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

生徒の積極的な活動が生まれた。ボランティア活動に参加する生徒は過去3年間で3倍を超えた。また、生徒の活動が新聞に取り上げられ、集会での表彰などで、全校生徒の意識が変わりつつあるように感じる。現在はHPでの広報が中心だが、ユネスコスクールの掲示板ももっと上手く使いこなせないかと思案している。また、地域に配布するチラシを作ったり、ツイッター発信などももっと力を入れて頑張っている生徒が目立って学校にしていきたい。そのためには本校職員の協力が不可欠であり、職員間のコミュニケーションを意識し、情報交換を行っていきたい。風通しの良い職場環境を目指していきたい。

(私たちのチカラ @volunteerwar)

地域からは学校を見直しました。素晴らしい取り組みですね。などお言葉をいただき、生徒が純粹に喜んでいる姿はほほえましかった。やる気の喚起にも確実に繋がっており、大変ありがたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

校内にユネスコ委員会を設置し、千葉県ESD部会に加盟し、活動をしている。千葉大学で行われるESD部会では学校間の交流や情報交換、成果発表会などを行っている。千葉大学のツインクル（東南アジアの大学から留学生の受け入れを行うもの）、次世代教育プログラム事業とも連携し、活動の成果発表を英語のポスターを作り、英語で留学生とセッションを行う、また、英語でワークショップを行うなど語学力、コミュニケーション能力の育成も視野に入れた活動ができた。

千葉県ユネスコ連絡協議会にも参加し、千葉市国際交流会館にて、実践活動についての成果発表や情報交換を行っている。参加は教育委員会、教育関係者、社会教育関係団体、一般市民で、幼稚園から特別支援学校を含めた高等学校まで幅広い交流がある。



千葉大学コンソーシアム



次世代教育プログラム参加

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項2-4に対応

ユネスコスクールが推進するESD 日米教職員交流プログラムに本校の職員が参加した。



現地アメリカの教員との研究テーマはゴミ問題

① メンバー Meredith Jacques (Parkway Central High) 上田 雅也 (桂川小学校) 黒澤 裕美子 (鎌ヶ谷西高等学校) ② 事前設定プロジェクト「日米ゴミ比較」 ③ 手順 1. 日米生徒のゴミ紹介…自分たちが生み出すゴミや活動内容を写真等で記録し、Google Education を用いて紹介する。 2. 意見交換…ゴミを減らす工夫を Google Education で意見交換する。 3. 意見交換…パリ協定について学び、環境問題に対する意見を交換する。 4. トランプ大統領へ手紙を出す。…パリ協定から脱退しないよう、Parkway Central High School の生徒がトランプ大統領へ手紙を出す中で、日本の各学校の活動と署名を入れてもらう。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調した

い) 内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)
※チェック事項2-5に対応

ユニクロの服のチカラプロジェクトに参加した1年2組の地域との取り組みを全国ユース環境活動発表大会に出場し、優秀賞を得た体験から、生徒が自信を持って発言する場面などが見られるようになった。本校は部活動の加入数も少なく、アルバイトもつづかないという生徒がいるが、インターンシップに参加する生徒が過去3年間で2倍、ボランティアの活動をする生徒が3倍以上にふえ、積極的な活動の場面が増えたことはよかったと思う。本校では今までもどうしても真面目な生徒が目立たない、足を引っ張られることがあった。そういう生徒が活動しやすい環境を作っていくことが大切だと思う。地域の人々との関わりを増やし、狭い学校の人間関係だけに固執しない広い視野を持たせたいと考える。(教員も自分の教科の授業だけに固執しない様広い視野でユネスコスクールの立場を利用できる様、情報を開示していきたい)生徒指導、進路指導につながる活動としての意識をもっと多くの教員に持って貰えるとありがたいと思う。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

30年度は29年度、クラスで実施したユニクロ「服のチカラプロジェクト」を学年全体で実施する予定。近隣中学校に拠点を置き、市内の小中学校と連携して活動をしていきたい。総合学習の時間などを使って実施できたらと考えている。そのために学年職員の分担などもしっかりと行う。また、各教科で連携して、たとえば家庭科総合2年が実施している保育体験のための、子どもと遊ぶおもちゃ、絵本などを美術の授業で制作するなど、授業時間をつかった無理のない取り組みを行っていきたいと考える。全職員の理解、協力があればユネスコスクールとしての活動は更に発展すると考える。

本校の基本的な理念は地域とつながり、地域に役立つ人間の育成であり、活動を通して自己有用感を得させたいと考えている。小学生へのワークショップや地域のイベント、お祭りに参加し、自分が誰かのためになる経験をさせることで自己の進路を実現する力とさせたい。